

「目標協働達成」の 一層の展開に向けた手引き

平成27年4月
大分県教育委員会

目 次

I はじめに	・・・ P 1
II 目標協働達成校について	・・・ P 2
III 目標協働達成の取組の流れ	・・・ P 4
1 学校の重点目標等の設定	・・・ P 4
2 目標協働達成チーム会議	・・・ P 5
3 「協働４点セット」の作成	・・・ P 6
4 周知・実践	・・・ P 8
5 検証・改善	・・・ P 12
6 モデルプラン	・・・ P 13
IV 目標協働達成校での現在までの成果と課題	・・・ P 14
V 学力向上会議における目標協働達成の展開	・・・ P 15
VI おわりに	・・・ P 16

参考資料

- 「協働４点セット」の事例

I はじめに

子どもたちの力と意欲を伸ばしていくには、学校・家庭・地域が子どもの状況やより良い育ちに向けた目標を共有した上で、互いに協力して取り組んでいくことが重要です。

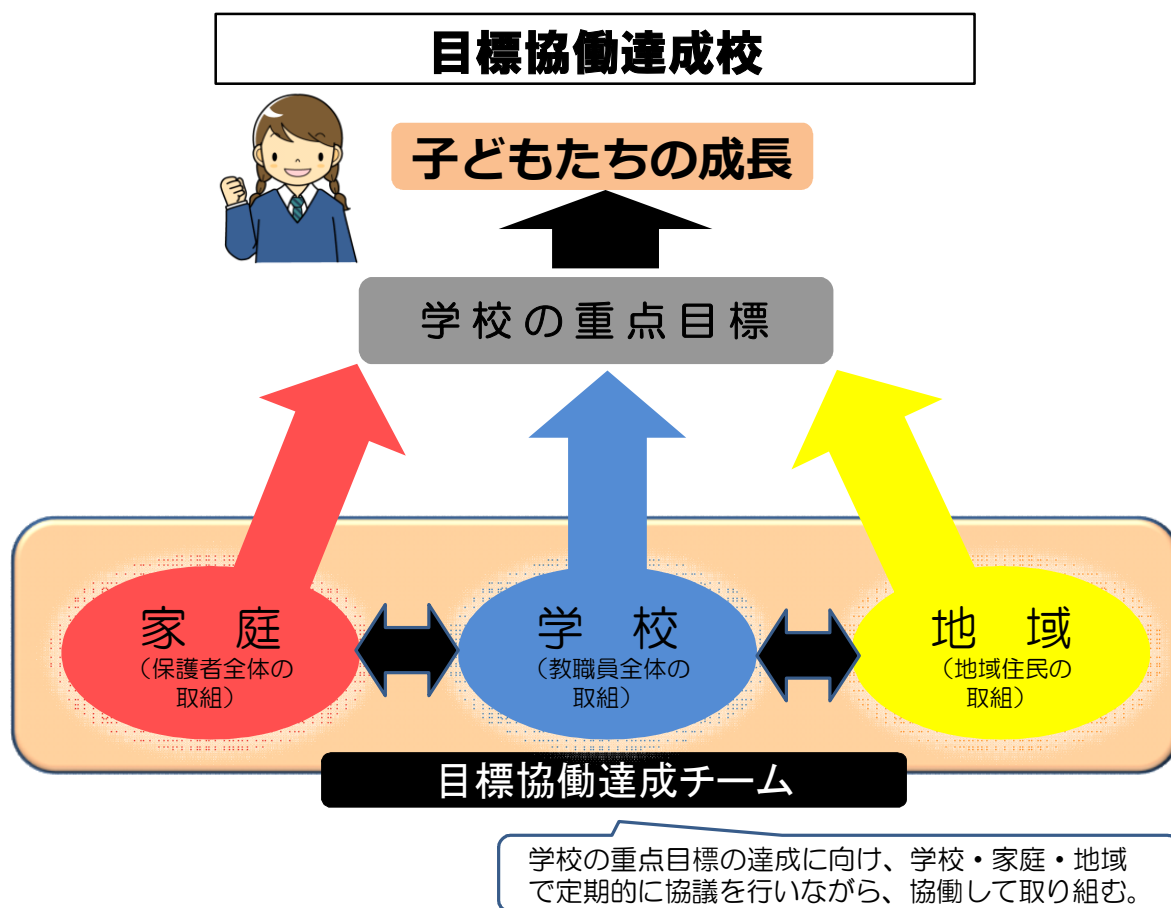
各学校では、「芯の通った学校組織」の取組の中で、目標や取組の焦点化、検証可能な指標の設定が行われており、それらを学校だよりやホームページなどを通じて保護者や地域住民に知らせるなどの情報共有が進みつつあります。他方、学校が家庭や地域と、学校評価の結果を踏まえ「改善の手立て」について話し合うような機会を設けている学校は少ない状況です。子どものより良い育ちに向けて学校・家庭・地域の連携を一層深める上で、学校からの一方的な説明や情報共有に止まることなく、共通の目標のもと、意思疎通を図りながら、それぞれが必要な取組を行い連携を進めていくという、学校・家庭・地域の「協働」が必要です。

県教育委員会では、平成26年度・27年度の2年間、小中学校38校（18市町村）をモデル校に指定し、「目標協働達成校」の取組を推進しています。モデル校では、学校の重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標を基に、家庭・地域がそれぞれの立場で重点目標達成に向けた取組内容を決め、三者で協議しながら取組を進めており、学校の重点目標を達成しつつあるなど成果がみられているところです。モデル校以外にも目標協働達成の取組を進めている学校もあり、市内の全小中学校で取組を進めているところもあります。

また、県教育委員会が平成26年11月18日に策定した「子どもの力と意欲の向上に向けた『芯の通った学校組織』活用推進プラン」の中で、各学校で年間2回行われている学力向上会議の在り方を見直し、学力の状況について説明・協議した上で、協働した取組についての協議・推進の場とすることとし、「平成27年度学力向上会議実施要項」にその内容を定めたところです。学力向上会議の発展的な見直しにより目標協働達成の取組を進めていただくというものです。

本手引きは、目標協働達成の取組の流れや取組事例などをまとめたものであり、モデル校はもとより全ての学校で、目標協働達成の考え方を活用して子どもたちのより良い育ちに向けて効果的な取組が展開されるよう作成したものです。

Ⅱ 目標協働達成校について



目標協働達成校の取組は、焦点化・具体化された学校の重点目標を家庭・地域と共有し、その達成に向けて学校・家庭・地域が協働して取り組むものです。

具体的には以下のとおりです。

- ・ 学校・家庭・地域代表者による「目標協働達成チーム」を結成し、重点目標達成に向けて定期的に協議を行います。
- ・ 学校・家庭・地域は、重点目標達成に向けてそれぞれの立場でできる重点的取組・取組指標を作成し、実践・検証・改善を行います。

目標協働達成校モデル校一覧

中津市	今津小学校
	今津中学校
	城北中学校
豊後高田市	高田小学校
	桂陽小学校
	真玉小学校
	都甲小学校・中学校（戴星学園）
	高田中学校
宇佐市	院内北部小学校
	院内中学校
姫島村	姫島中学校
国東市	富来小学校
	竹田津小学校
	国見中学校
杵築市	豊洋小学校
日出町	藤原小学校
別府市	亀川小学校
	上人小学校
	北部中学校
大分市	田尻小学校
	城南中学校
臼杵市	臼杵南小学校
	南中学校
津久見市	青江小学校
由布市	由布川小学校
	東庄内小学校
佐伯市	佐伯小学校
	鶴谷中学校
	昭和中学校
竹田市	都野小学校
豊後大野市	朝地小学校
	朝地中学校
日田市	大明小学校
	大明中学校
九重町	野上小学校
	南山田小学校
玖珠町	森中央小学校
	八幡中学校

Ⅲ 目標協働達成の取組の流れ

1 学校の重点目標等の設定

学校は、子どもの状況、学校の課題等を分析し、具体的で焦点化された重点目標を年度当初に決定します。

そして、この重点目標に沿って、達成指標、重点的取組、取組指標を設定します。

(重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標＝「学校の4点セット」)

「学校の4点セット」の具体例

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○独自のチェックテストを実施し、本年度当初の下位層の割合を年度内に半減する。 ○単元まとめテスト60点未満の割合を半減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての児童にめあてとまとめが明確にわかる1時間完結型授業を徹底する。 ○スキルタイムを設定し、基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員が学期に3回以上互見授業に取り組む。 ○スキルタイムを毎日朝読書の後、全教職員で、8:20～8:35の15分実施。 月、水、金→算数 火、木 →国語
あいさつができる子の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民アンケートで「この学校の子どもたちは、あいさつをよくする」と回答した割合が80%以上。 ○積極的にあいさつをしていると答える児童が90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつ運動に取り組む ○あいさつがよくできた児童を褒める。 ○あいさつができることの重要性を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎朝5人以上の教職員で、あいさつ運動を行う。 ○どこの学級も、毎週1回は、HRの時間に、よくあいさつできた児童を褒める。 ○学校集会や、学年集会の時に、必ずあいさつのことに触れる。
運動好きな子の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「運動や外遊びが好きだ」と答える児童が80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校児童が毎日昼休み運動や外遊びをするよう取り組む。 ○家庭と連携して、運動の基礎となる生活習慣の確立に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日、昼休みに運動や外遊びをするように促す。 ○各学級担任が、児童の朝食の状況を把握し、毎月、個別に保護者との話し合いをする。

目標協働達成校では、学校の重点目標を踏まえて、

①家庭・地域で取り組める目標は何か、

②何をどれくらい取り組むこととするか

を学校・家庭・地域で協議しながら決めていきます。

2 目標協働達成チーム会議

学校・家庭・地域の代表者が集まって協議をします。これが目標協働達成チーム会議です。学校代表については、校長や教頭、各主任など、家庭の代表はPTA会長・副会長など、地域の代表は学校評議委員や自治会役員などが考えられ、学校の実情に応じて構成員を決めます。

この会議では、学校が分析した子どもの状況、学校の課題等について共通理解を図った上で、学校の重点目標達成のため、家庭・地域で取り組める目標は何か、何をどれくらい取り組むこととするかについて協議します。この会議で大事なことは、保護者や地域の方に子どもの状況、学校の課題等を十分理解してもらうことです。学校が何を課題と捉えてどこを目指しているか理解してもらい、建設的での的を射た協議を進める必要があります。

考えられる協議の内容は次のようなものです。

協議の内容

- ・子どもたちの現状はどうか？
- ・学校の喫緊の課題は何か？
- ・学校の重点目標とその背景は？
- ・同じ重点目標に向かって、学校・家庭・地域で取り組めそうなことは何か？

なお、この会議でどこまで決めるかは、それぞれの学校の実情に応じて判断します。

会議の持ち方の例

例1：どの目標に取り組むかや、具体的な取組内容は、家庭（PTA役員会等）や、地域（自治会役員等）に持ち帰って、それぞれの中で決める。

例2：このチーム会議で、学校・家庭・地域で協働して取り組む重点目標、具体的な取組内容を決める。

（学校・家庭・地域の会議について）

学校には、家庭や地域の代表が参加する学力向上会議、学校評議員会、学校関係者評価、学校運営協議会など、家庭・地域との連携を深めることを目的とする場が複数あります。目標協働達成チーム会議をこれらの会議と併せて開催することにより、効率よく運営することができます。

3 「協働4点セット」の作成

第1回の目標協働達成チーム会議あるいは家庭（PTA役員会等）や、地域（自治会役員等）での協議により、学校・家庭・地域で協働して取り組む目標、具体的な取組内容を決定します。これを学校・家庭・地域版の「協働4点セット」と呼びます。

「協働4点セット」の具体例

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標
基礎・基本の定着	○独自のチェックテストを実施し、本年度当初の下位層の割合を年度内に半減する。 ○単元まとめテスト60点未満の割合を半減する。	学校	○全ての児童にめあてとまとめが明確にわかる1時間完結型授業を徹底する。 ○スキルタイムを設定し、基礎・基本の定着を図る。	○全教職員が学期に3回以上互見授業に取り組む。 ○スキルタイムを毎日朝読書の後、全教職員で、8:20～8:35の15分間実施。 月、水、金 → 算数 火、木 → 国語
		家庭	○家庭学習の徹底。 ○アウトメディアの取組の推進。	○毎日、子どもに家庭学習（宿題）を行ったか声をかける。 ○ノーテレビ・ノーゲーム週間を各学期に1回実施する。
		地域	○学習サポーターの取組の充実。 ○積極的な学校支援。	○年間20回、学びの教室学習サポーターとして毎回3人以上参加する。 ○年間3回、学校行事（授業参観等）に参加する。

具体例では、三者で取り組む重点目標を「基礎・基本の定着」とし、学校・家庭・地域がそれぞれで取り組む内容を「重点的取組」と「取組指標」により設定しています。重点目標の達成に向けての取組が「重点的取組」で、その取組を「誰が」「どれくらい」行うかが「取組指標」です。「取組指標」により、取組の主体や頻度を定めることで、何を具体的にを行うかが明確になります。

なお、協働して取り組む目標は、学校の重点目標全てについて取り組む方法もあれば、具体例のように重点目標の一つに絞って取り組む方法もあります。また、家庭と地域それぞれで異なる重点目標に取り組むことも考えられます。

この「協働4点セット」の設定が、1年間の目標協働達成の取組を左右します。設定に当たっては、次の点がポイントとなります。

- ・ 家庭や地域が取り組みやすいものとする
- ・ 家庭や地域が継続しやすい取組とする
- ・ 取り組めたかどうかを判断しやすいものとする

目標協働達成モデル校では、様々な工夫をしながら取組を進めており、取組の流れに沿って取組事例を紹介します。

取組事例①「協働4点セット」作成のための家庭へのアンケート

・学校の重点目標達成に向けた、家庭での取組について、保護者に事前にアンケートを行う。これにより、各家庭の意向や様々なアイデアが把握でき、効果的な「協働4点セット」の作成につながる。また、保護者の取組に対する意識啓発にもつながる。

(保護者アンケート)

平成26年4月22日

保護者 殿

〇〇小学校校長 〇〇 〇〇

目標協働達成モデル校の推進に係るアンケート調査について（お願い）

学校の重点目標は「勉強に頑張る子の育成」です。学力を高めるために、全家庭で取り組んだり、保護者が取り組むべきだと思う具体的なアイデアがありましたら下欄にお書きください。

取組事例②目標協働達成の推進体制の明確化

・「目標協働達成モデル事業」の推進体制等を盛り込んだ実施要領を作成する。目標協働達成チーム会議の委員長を地域代表、副委員長を保護者代表とし、学校は事務局と明示する。これにより、三者の協働した取組であることが理解され、家庭や地域の協力が得やすくなる。

「目標協働達成モデル事業」実施要領

(実施要領)

1 目的 学校・家庭・地域が学校の重点目標を共有し、その達成に向けて三者が協働した取組を展開し、その成果を検証・改善し、子どもたちのより良い育ちに資する。

2 実施内容

(1) 学校・家庭・地域の代表者からなる「目標協働達成チーム」を組織する。

(2) 取組の設定や実践・検証・改善のため「目標協働達成チーム会議」を定期的を開催する。

3 組織 「目標協働達成チーム」構成

役職	氏名（役割）	役職	氏名（役割）
校長	〇〇 〇〇（事務局）	PTA副会長	〇〇 〇〇
教頭	〇〇 〇〇（事務局）	区長会長	〇〇 〇〇（委員長）
PTA会長	〇〇 〇〇（副委員長）	民生委員	〇〇 〇〇

4 周知・実践

「協働４点セット」が完成したら、次は学校・家庭・地域へ周知して実践です。

いくら素晴らしい「協働４点セット」が完成したとしても、家庭や地域の役員や校長・教頭だけしか知らないのでは成果は上がりません。「協働４点セット」を学校・家庭・地域全体で共有した上で、それぞれの学校や地域の実情に合わせ取組を進めていきます。

○家庭・地域への周知について

以下のような方法が考えられます。

家庭への周知

- ・学校から文書で依頼する。
- ・PTA総会や学級懇談の場を利用する。
- ・家庭訪問や面談等を利用する
- ・クラス通信や学校だよりで周知する。
- ・学校のホームページで情報発信する。
- ・保護者代表が中心となって周知する。

地域への周知

- ・学校から文書で依頼する。
- ・学校だよりを地域へ回覧する。
- ・公民館だよりで周知する。
- ・学校のホームページで情報発信する。
- ・学校代表が自治会役員会等に参加して依頼する。
- ・地域代表が中心となって周知する。

○学校内の周知・徹底について

目標協働達成の取組を進める上では、全教職員の共通理解が不可欠です。「協働４点セット」を運営委員会や職員会議、目標管理面談等で全教職員に周知・徹底し、目標協働達成の旗振り役としての学校の役割を果たしていく必要があります。

取組事例③ポスター配付による家庭への周知と取組の促進

・家庭での取組内容を表示したポスターをラミネート加工し、各家庭へ配付する。裏面にはマグネットを貼り、家庭内に掲示しやすい工夫もする。

P T A ス ロ ー ガ ン

(配付ポスター)

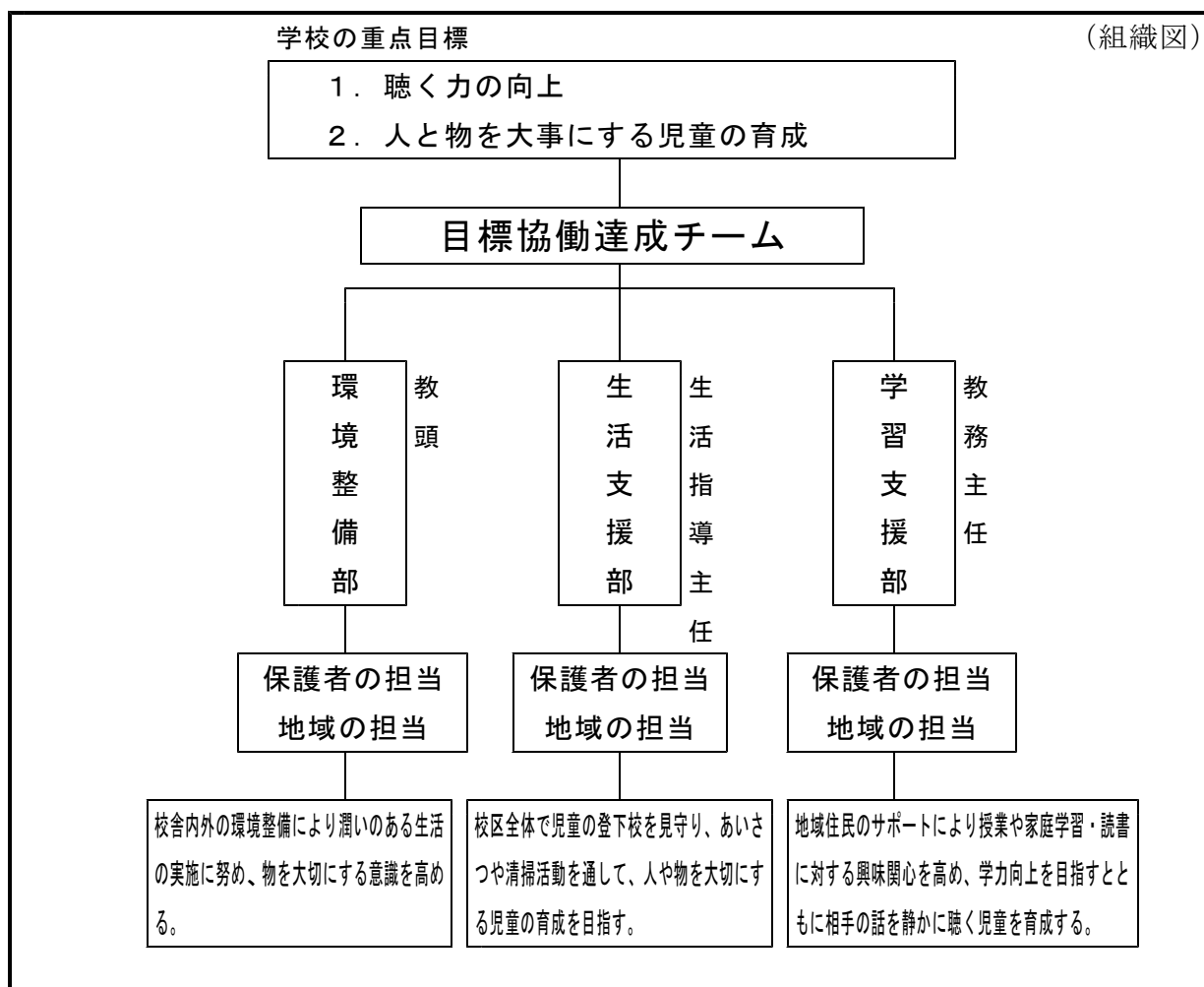
「夢を語ろう、学校を語ろう、親子で語ろう！」

【家庭での取組】

- 1日1回は「学校はどうだった」と聞く。
- 毎朝、親からあいさつをする。
- 毎朝、朝ごはんを食べさせる。

取組事例④重点目標達成のための学校・家庭・地域による推進部会の設置

・学校の重点目標達成のための推進部会を設置し、学校の担当、保護者の担当、地域の担当を決め、各部会の取組を三者の連携により進める。



取組事例⑤ P T A 学級懇談会を活用した家庭への周知・徹底

- ・ P T A 学級懇談会で、学級担任が保護者と協議しながら、家庭での取組について周知
- ・ 徹底を図る。

P T A 懇談会資料

「確かな学力の定着」に向けての取り組み

〇〇中学校が大分県教育委員会より「平成26年度目標協働達成モデル校」に指定され、学校だよりでもお知らせの文書を配布しています。そこで、1学期末P T Aの機会をとらえ、この趣旨を保護者の皆様にご理解いただき、「家庭の取り組み」の徹底をしていただきたいと思います。

- 1 協働で取り組む目標 **「確かな学力の定着」**
- 2 目指すところ
 - 次年度（H27）の全国学力調査（現2年生）・大分県学力調査（現1年生）及び今年度の市評価規準診断テスト（現1年生）で各平均を上回る。
 - 定期テストの平均点6割以上を70%以上、4割未満を10%未満にする。
- 3 達成に向けて取り組む内容
 - ①学習規律・学習習慣の確立
 - ②学習意欲・態度の喚起
 - ③メリハリのある一時間完結型授業の定着
 - ④積極的な情報発信による、「学校の見える化」の推進
- 4 家庭にお願いしたい取り組み内容
 - ①学習習慣の確立
 - ②学習意欲・態度の喚起
 - 具体的な取り組み
 - ・週に1回「自学ノート」を見て、コメント（ほめること・やる気にさせること）を書く。
 - ・週に1日の「ノーゲームデー」等、ゲーム・スマホを使う時間を制限するルール作り
- 5 地域にお願いしている内容

先日、〇〇地区代表区長会議で説明を行い、「日頃、地域で生活する本校生徒の様子（あいさつの状況、遊び方、自転車の乗り方、地域行事への参加状況や学校の取り組み、体育祭や文化祭などの学校行事、学力向上の取り組み、部活動や生徒指導の取り組み、教師の姿勢など）で良い点（気になる点）を積極的にお知らせ下さい」とお願いしています。その声をお聞きして、生徒をほめたり、地域行事の中で活躍する姿を紹介したりしていきたいと考えています。

学級懇談の中で協議をしていきます。

(PTA学級懇談会資料)

<協議> どのように取り組みをすすめていくか。

・週に1回「自学ノート」を見て、コメント(ほめること・やる気にさせること)を書く。

例:

☆間違えた所は、必ずやり直しをして、
理解(ていさまし)より。テストで、あてず、
計画を立て頑張りましょうね④

このような内容のコメントを週に1回生活ノートまたは、自主学習ノートに書いていただければありがたいと思います。まず、ノートのすみにコメントを書いて下さい。日頃の様子を見て、注意するのではなく、ほめて、やる気をおこさせるコメントを書くのがむずかしい所だと思います。波及する効果としても、自分の子どもの勉強の様子を見ることができますし、生活ノートを通じての担任と子どもとのやりとりも垣間見ることができます。学習の様子がわかれば、これからの対策も考えることもできます。

・週に1日の「ノーゲームデー」等、ゲーム・スマホを使う時間を制限するルール作りについて

例:・夜9時を過ぎたら、携帯・スマホは、自分の部屋に持って行かず、リビングに置く。

・ゲームは、9時以降はしない。ゲーム機は、リビングに置く。

・テスト前1週間は、携帯やゲーム機を撤収する。 などなど

このルール作りは、親が一方的に決めてもいいけないと思います。子どもとの話し合いで決めて欲しいと思います。ただ、学校をあげての取り組みですので、子どもがルールを決めたがらなくても、何らかのルールを家庭で話し合っ決めて下さい。

- 週に1日の「ノーゲームデー」等、ゲーム・スマホを使う時間を制限するルール作りについては、他の家ではどんなルール作りをしたのかを交流できるように、学級で一覧表にまとめたかと考えています。どのようなルール作りをおこなったのかを下の枠に書いて、担任までお知らせ下さい。

切り取り線

「確かな学力の定着」目標協働達成のための我が家のルール

()年()組 生徒氏名()

※箇条書きで、1つでも結構です。7月11日(金)までに担任に提出して下さい。

5 検証・改善

○1学期の総括

学校・家庭・地域で取組を進め、1学期の終わりには、学校・家庭・地域の取組の総括を行います。目標協働達成チーム会議を開催し、ここでは、以下の点について話し合います。

- ・ 重点的取組、取組指標により決めたことに実際に取り組めたか
- ・ その取組により、重点目標は達成できつつあるか
- ・ 次の学期は何に取り組むのか（同じ内容とする、あるいは、変える）

この会議では、1学期の取組の成果と課題、今後の取組等を共有します。学校・家庭・地域それぞれの頑張りをお互いに確認して、次の取組につなげる建設的な協議の場としてください。

なお、検証を行うに当たっては、児童生徒や保護者、地域への聞き取りやアンケート等の効果的な利用が望まれます。

○2学期以降の取組

1学期の総括が終わったら、2学期には引き続き協働した取組を進めます。そして2学期末に1学期末と同様の総括を行います。

3学期も同様に進め、3学期末には1年間をふり返っての総括を行い次年度への取組につなげていきます。

取組事例⑥年度途中に取組を追加した事例

- ・ 1学期末のアンケート結果から、家庭での3つの取組が十分行えたことから、2学期に取組を1つ追加した。1学期に各家庭に配付した家庭での取組を示したポスターに追加表示のシールを配付した。

PTAスローガン

(配付ポスター)

「夢を語ろう、学校を語ろう、親子で語ろう！」

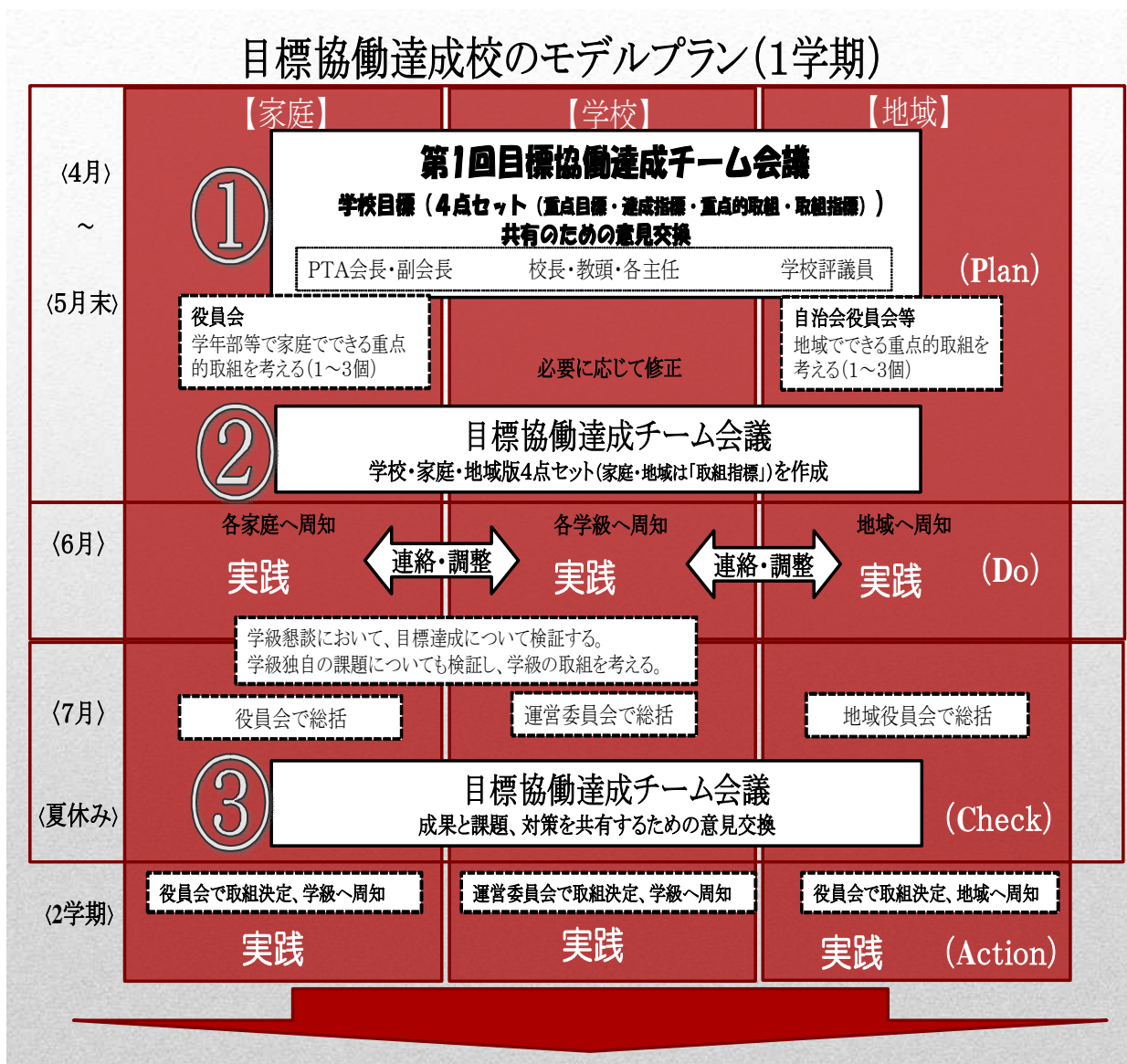
【家庭での取組】

- 1日1回は「学校はどうだった」と聞く。
- 毎朝、親からあいさつをする。
- 毎朝、朝ごはんを食べさせる。
- 毎日、「宿題は終わった」と聞く。

2学期から追加

6 モデルプラン

- これまでの
- 1 学校の重点目標等の設定
 - 2 目標協働達成チーム会議
 - 3 「協働4点セット」の作成
 - 4 周知・実践
 - 5 検証・改善
- のモデルプランを示すと下記ようになります。



このサイクルを2学期、3学期と継続していきます。

IV 目標協働達成校での現在までの成果と課題

目標協働達成のモデル校では、学校・家庭・地域が連携を図りながら1年間取組を進めてきました。

多くのモデル校では、協働して取り組む目標に「学力向上」を挙げています。家庭での取組を「家庭学習の点検」や「ノーテレビ・ノーゲーム」としている例が多く、取組指標により具体的に取り組む「日」や「時間」を設定し、家庭への周知を図ることで、家庭学習の習慣が以前より付いてきたという学校がほとんどです。また、地域の取組は、学習サポーターやゲストティーチャーといった学習支援や学校公開日の授業参観への参加という協力が多く見られ、いずれもこれまでも多くの学校で取り組まれていたことですが、学習支援の回数や人数が増えたり、学校公開日の参加者が増えたりと、より積極的な協力を得られています。

「豊かな心の育成」や「体力向上」の目標についても、具体的な取組内容を明確にし、家庭や地域全体で取り組むことで、これまで以上に家庭や地域の協力が得られる結果となっています。

さらに、目標協働達成の取組により、保護者や地域の方の学校への支援をこれまで以上に得られるようになりました。これまで教職員が行っていた学校の環境整備や授業の補助などを保護者や地域の方が行うことで、教職員の負担軽減につながり子どもと向き合う時間の確保にもつながったという副次的な効果も見られています。

モデル校にはコミュニティ・スクールも多く含まれています。コミュニティ・スクールでは、学校運営協議会が設置され、委員である保護者や地域の方が学校運営の基本方針を承認したり、教育活動に対し意見を述べたりすることを通じて、学校運営に参画していますが、コミュニティ・スクールにおいても、目標を共有しその達成に向けて学校・家庭・地域が協働して取組を進める目標協働達成の取組が有効なものとなっています。

他方で、目標協働達成の取組を一般の保護者や地域の方に幅広く伝え取組を徹底することが難しいという課題や、また、家庭の取組に比べ、地域の取組の取組指標の設定や検証が難しいといった課題もあります。こうした課題に対処する上では、本手引きの取組事例④（P9）で紹介している三者が連携した推進部会の設置などにより、役割分担を明確にし家庭や地域の能動的な取組を促す工夫が必要です。

このように各学校では、様々な状況の中、目標協働達成の取組を進め、学校・家庭・地域の「協働」の意識が、高まりつつあります。

V 学力向上会議における目標協働達成の展開

学校・家庭・地域の連携を図る場の一つとして、(P5にも記載のとおり)年間2回(原則8月・2月)各学校で開催されている学力向上会議があります。この学力向上会議については、学校からの説明に終始し、必ずしも三者連携の深まりが十分図られていない場合があることから、「子どもの力と意欲の向上に向けた『芯の通った学校組織』活用推進プラン」(平成26年11月18日大分県教育委員会)の中で、同会議の在り方を見直し、学力の状況について説明・協議の上で、三者が協働した取組について協議・推進する場として位置付ける方針を示しています。

目的・実施内容等については「平成27年度学力向上会議実施要項」に示していますが、学校・家庭・地域の協働に関しては、まさに目標協働達成の考え方を導入するものです。具体的には、同実施要項<別紙>及び下記スケジュール・取組方法に則って進めます。また、学力向上会議における協議を契機として「目標協働達成校」としての取組へ発展させていくことも期待されます。

○スケジュール・取組方法

4月～7月 事前の準備や協議	<ul style="list-style-type: none">・学校は8月の第1回学力向上会議までに提供可能な学校評価の結果や学力調査等の結果について、学力向上会議の構成員への情報提供に努めます。・学校は家庭・地域に具体的に何をどのように取り組んでもらえばよいかを事前に検討しておきます。
8月 第1回学力向上会議	<ul style="list-style-type: none">・学校は学力調査の結果等で判明した学力の状況や学力向上に向けた学校の取組を説明し、家庭や地域の方に学校の課題等を十分理解してもらいます。・その上で、学校と協働した家庭・地域のそれぞれの取組(重点的取組・取組指標)を協議し決定します。
9月～1月 実践	<ul style="list-style-type: none">・学校・家庭・地域が連携を図りながら、それぞれで取組を進めます。
2月 第2回学力向上会議	<ul style="list-style-type: none">・学校・家庭・地域の取組の状況や成果等を検証し、次年度の課題や今後の取組について協議します。

※ このスケジュールは、8月の第1回学力向上会議で具体的な家庭・地域の取組を決定する例を示していますが、年度当初から取組を実践している学校では、8月の第1回学力向上会議は取組の状況や成果等を検証し、改善につなげる場となります。

VI おわりに

「芯の通った学校組織」の定着状況調査（平成26年7月実施）の中で、学校・家庭・地域の連携に関し、多くの校長が家庭・地域との連携への教職員の意識の向上や、保護者や地域の方の学校への関心の一層の高まりが必要と回答しており、学校・家庭・地域の連携についてさらなる充実が必要と考えています。

学校・家庭・地域の相互の連携協力については、これまで学校評議員制度、学校関係者評価、学校支援地域本部、コミュニティ・スクール、「協育」ネットワークなどの仕組みが作られ、その連携が図られてきたところですが、目標協働達成の取組は、学校の目標が重点化・焦点化されてきた中で、その達成に向けて学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚し連携して取り組む具体的な方法を示したものです。学校・家庭・地域が共通の目標に向かってベクトルを同じくすることで相乗効果が上がっていくことを目指しています。

今後、各学校での目標協働達成の取組がさらに充実することにより、子どもたちのよりよい育ちにつながっていくことを期待します。

参考資料

○「協働４点セット」の事例

豊後高田市立真玉小学校

国東市立竹田津小学校

姫島村立姫島中学校

別府市立亀川小学校

津久見市立青江小学校

佐伯市立鶴谷中学校

豊後大野市立朝地小・中学校

玖珠町立八幡中学校

学校教育目標

夢を抱き 健やかでたくましい児童の育成

～学校・家庭・地域が協働して達成する～

(9月改訂)

重点目標	達成指標	重点的取組			取組指標		
		学校	家庭	地域	学校	家庭	地域
魅力ある 授業づくり	知: その学年でつ けなければならな い力の目標値を7 割以上の児童が達 成できるようにする	①教職員一人ひとり の授業力の向上を 図る。 ②学習形態を工夫 し、教えあいや学び あいの学習を充実さ せる。 ③構造化された板書 に基づく授業を展開 する。	①学校公開日に 授業参観を行 う。 ②家庭学習の声 かけをする。	①学校公開日に 授業参観をす る。	①全教職員が年に2回以上、新た な取り組みを入れた互見授業を行 い、授業改善につなげる。 ②校内研修の中で、板書画像をも とに板書の見直し・交流を行う。 ③児童の課題をもとに内容を焦点 化して、全職員でチャレンジタイム に取り組む。	①学期に1回以上 の授業参観をす る。 ②毎日、家庭学習 の取組状況の声 かけを子どもにす る。	①学期に2回 は、学校公開日 に授業参観を行 う。
明る い児童 の育成	徳: 気持ちよく自分 から挨拶できる児 童の割合を9割以 上にする	①児童会を中心に、 挨拶運動に取り組 む。 ②挨拶の重要性を 児童と保護者に伝え ていく。 ③場に応じた挨拶を 広める。	①PTA生活指導 部が、挨拶運動 の取組をする。 ②家庭の中でも 挨拶をする。	①地域で子ども を見かけたら、 挨拶をかわす。 ②学校公開日に 積極的に授業参 観を行う。	①委員会ごとに、児童が朝の挨拶 運動に週1回取組む。 ②気持ちのよい挨拶の具体的な 姿、挨拶指標を学級通信等で保護 者にも広報し、学級や集会で具体 的な姿をあげて指導する。 ③気持ちのよい挨拶の具体的な 姿、具体的な指標を示し、学級で毎 週反省する。	①PTA生活指導部 が、毎月2回挨拶運 動に取り組む。 ②朝の「おはよう」、 夜の「おやすみ」の 挨拶を家族全員が 毎日する。 ③学期末の学校の アンケートに回答す る。	①登下校の子ど もに出会ったら、 挨拶をする。 ②学期に2回 は、学校公開日 に授業参観を行 う。 ③学期末の学校 のアンケートに 回答する。
たく ましい 体づくり	体: 基本的な生活習 慣を確立させ、ス ポーツタイムの実 施率を9割以上に する	①スポーツタイムと 外遊びの奨励によ り、体力向上を図る。 ②委員会活動とPTA 活動とを連携させ、 適正な生活リズムを 確立させる。	①歩いて登校を させる。 ②「早寝・早起 き・朝ごはん」の 取組をする。	①歩いて登校し ている児童に声 かけをする。 ②体育的行事に 参加する。	①昼休みの終わりにサーキットタイ ムで毎日5分間運動をする。 ②各種スポーツタイム内で適宜指 導し、運動の仕方を改善する。 ③生活リズムアンケートで見えてき た課題を元に、ショートの学級指 導・個別指導を行うと共に、保健だ よりや児童集会の場で発信してい く。	①毎日、子どもを 歩いて登校させ る。 ②「ひとりだちしら べ」の期間、寝る 時刻、起きる時刻 を決めて、記録を する。	①歩いて登校し ている児童を見 守ったり、挨拶 や励ましの声を かけをしたりす る。 ②運動会に参加 する。

P (計画) → D (実践) → C (評価) → A (改善)

学校経営の最重点

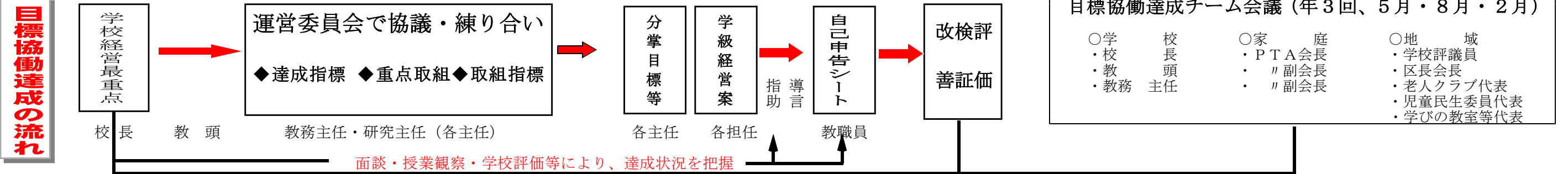
重点目標	達成指標	重点取組	取組指標
勉強に頑張る子の育成	全学年とも、全児童の各学期毎の国語・算数の各単元テストの正答率75%以上	〈授業改善〉 ○ 考えさせる場を適切に位置づけ、交流とまとめを大事にする授業を徹底する	○ 管理職による授業観察を毎日行う ○ 各学期互見授業1回、年に一回全員公開授業を行う ○ 毎学期末毎に、「子どもによる授業評価」を実施する
		〈ドリルの充実と個別指導の徹底〉 ○ 朝ドリルの充実と個別指導の徹底により、つまづきを改善する	○ 朝の帯時間の20分間ドリルを実施する 月→国語(音読・言語事項) 火→算数(計算・文章題) 水→国語(長文) ○ 個々の学習カルテ(国語)を作成し、個別指導に活用する
		〈家庭学習時間の向上〉 ○ 家庭の学習時間を向上する	○ 毎月、担任が家庭学習時間が確保されているか、月はじめ一週間の生活見直しカードをチェックし指導する 低→20分 中→40分 高→60分 ○ 2ヶ月に一度、児童が家庭学習力チェックリストをもとに点検を行う
国東市標準学力テストで、全児童の正答率を1割向上			

目標協働達成の推進

重点取組	取組指標
〈授業改善〉 ○ 学校公開日に積極的に授業参観を行う	○ 各学期2回ずつ(5月・6月・10月・11月・1月・2月)行う学校公開日に各区、各老人クラブ(5地区)より毎回3名ずつ以上、学校評議員、児童民生委員より毎回3名ずつ以上、計33名以上授業参観を行う ○ その都度、できるだけ授業の様子や子ども達の様子についてアンケートに答え、提出する
〈ドリルの充実と個別指導の徹底〉 ○ 朝ドリルのサポーター学びの教室等の指導者として参加協力する	○ 毎週火・水の朝ドリルの時間に学習サポーターとして参加協力する ○ 毎週水曜日の放課後学びの教室月1回実施する土曜教室に指導者として参加協力する
〈家庭学習時間の向上〉 ○ ノーテレビ・ノーゲームに取り組む	○ 毎週月曜日、ノーテレビ・ノーゲームに取り組む(レベル3を中心に)

目標協働達成状況評価・改善

評価方法	評価者	達成基準	検証・改善
★学校公開参観者数 ★参観者アンケート提出率 ↓ ●学校評価(以下肯定割合)	学校 学校	33名以上 80%	チーム会議 チーム会議
*先生の授業は、よく分かるか *基礎的な学力が身につく指導を行うとともに、楽しく分かりやすい授業を行っているか *教材、教具、板書、発問の工夫等を行い、学び合う授業を心がけているか	児童保護者 教職員	90%以上 80%以上 85%以上	運営委員会 運営委員会 運営委員会
★朝ドリルの学習サポーター数 ★学び、土曜教室の指導者数 ↓ ●学校評価(以下肯定割合)	学校 学校	10名以上 5名以上	チーム会議 チーム会議
*朝ドリルは、自分のためになっているか *先生は、学習のつまづきなど個別によく指導しているか *自分の学級の児童の弱点を把握し、その改善のための計画的な朝ドリルの運営ができたか	児童保護者 教職員	90%以上 80%以上 90%以上	運営委員会 運営委員会 運営委員会
★ノーテレビ・ノーゲームが守れている割合 ↓ ●学校評価(以下肯定割合)	学校 学校	80% 80%	チーム会議 チーム会議
*家で勉強を毎日決められた時間しているか *この子は、家庭学習習慣がついてきているか *家庭と連携した学習習慣の継続的取組ができてきているか	児童保護者 教職員	85%以上 75%以上 90%以上	運営委員会 運営委員会 運営委員会



学校経営の最重点

目標協働4点セット

3学期の学校評価結果

重点目標	達成指標	重点的取組	学校の取組指標
基礎・基本の定着	■村学力テストにおける目標値達成項目70%以上	○(授業改善)	●(学期ごとの互見授業週間の活用)
		○(補充学習)	●(月・火・木の放課後, 国・数・英を実施)
		○家庭学習時間を確保させる。	●「姫中・家庭の七ヶ条」の全家庭に配布し通信等で活用を促す。 ●数学・英語の家庭学習を毎日実施する。週末はB問題対策プリントとする
		○(言葉遣い)	●(毎月1週間の言葉遣い意識週間)
規範意識の確立	■学校のきまりが守れている生徒の割合100%	○全校生徒で毎日, 挨拶運動に取り組む	●全校を6グループに分け, 毎朝15分間(7:45~8:00)校門前で, 登校する生徒や地域の方への挨拶運動をさせる
		○(身なり)	●(月1回身なりチェック)
		○(学習規律)	●(毎月の学習規律強化週間)
		○(言葉遣い)	●(毎月1週間の言葉遣い意識週間)

達成指標	重点的取組	取組指標
■家庭学習時間の確保による村学力テストでの標達成項目70%以上	家庭	○家庭学習について声かけをする ●毎日, 家庭学習時間確認の声かけを行う
	家庭	○学習や読書に集中できる環境をつくる ●携帯電話, パソコン等の終了時刻(午後10時)や不使用時間(テスト期間中・毎日の家庭学習時間中)を守らせる
	地域	○学習に対する気運を盛り上げるために学校に足を運ぶ ●「学校へ行こう」を合言葉に, 曜日を変えながら毎月1回授業公開をする ●毎月, ケーブルテレビで広報活動をする

評価項目	3学期目標	結果	評価
●子どもの家庭学習時間を毎日確認している	〈A評価〉保護者70%	35%	C
●子どもは携帯・パソコン等の使用終了時刻が守れている	〈A評価〉保護者70%	70%	A
●子どもはテスト期間中, 携帯パソコンを使っていない	〈A評価〉保護者70%	63%	B
●子どもは毎日の家庭学習中携帯・パソコンを使っていない	〈A評価〉保護者70%	78%	A
●携帯・パソコンの使用方法について親子で話し合いができて守らせている	〈A評価〉保護者70%	66%	B
●3学期の学校公開の参観数総計30人以上	〈A評価〉参観者30人	24人	B

達成指標	重点的取組	取組指標
■挨拶のできる生徒の割合100%	家庭	○親から挨拶をする ●毎朝, 親子で挨拶をする
	家庭	○地域の人との挨拶について話し合う ●1週間に1度, 地域の人(誰, どの人)と挨拶したか話し合う
	地域	○子どもを見かけたら挨拶する ●毎日, 出会った子どもに挨拶する。子どもから挨拶されたら必ず挨拶を返す ○民生委員・児童委員が毎月1回, 校門で挨拶運動をする ●毎月1回, 民生委員等が5人以上で正門前の挨拶運動を実施する

評価項目	3学期目標	結果	評価
●毎朝, 親子で挨拶している	〈A評価〉保護者60%	86%	A
●週に一度, 地域の人との挨拶について話し合っている	〈A評価〉保護者60%	31%	C
●村内の各種会合で, 地域の方から生徒の挨拶について意見をもらう			A

「学力向上」協働達成をめざした学校経営

目標協働達成に向けた4点セット

別府市立亀川小学校

重点目標		達成指標	重点的取組	取組指標
確かな学力の定着と学びあいの充実	学校	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期の国語・算数の単元テスト集計で、80点（評価規準）突破児童8割50点未満児童を1割にする。 ○全国・県・市の各種学力調査実施教科で平均正答率が目標値を超え、全体（全国・県）との差を悪くても-3以内にする。 ○「授業が楽しい」「授業がよくわかる」と答える児童9割以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○「1問チャレンジ」の徹底と亀川タイムの実施 ○個の課題に沿った習熟度別（家庭学習）課題の設定 ○「課題」と「まとめ」のある1時間完結型授業の徹底と実践的な校内研修の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○一日15分間の「1問チャレンジ」を毎日実施 ○亀川タイムの隔週実施 ○週1回以上の習熟度別宿題の実施 ○「校長先生の宿題」を4・5・6年生に実施（月2） ○学期に2回の互見授業実施 ○校長・教頭週3回の授業観察 ○グループを中心とした授業研究各教師（1～2学期1回）実施
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の取組「取り組めた」10割の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日の声かけと週に一度の宿題の確認を中心とした「家庭学習6つの約束」の実施 ○ノーゲーム・テレビ週間の実施（PTA） 	<ul style="list-style-type: none"> ○定時、必要な時間、場所、環境を整えて取り組む ○ノーゲーム・テレビ週間の実施（1回以上）啓発週間（12月、2月）
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年で地域学習の協力を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・行事での支援・協力 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年地域と連携した学習（1回以上） ○運動会・マラソン大会等で地域との協働
豊かな心とともに生きる力の育成	学校	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価項目「挨拶をよくする」「言葉づかいが良い」「学校が楽しい」で児童肯定率が9割以上(前年比+5%) 保護者肯定率 あいさつ9割（前年比+5%） 言葉遣い7割（前年比+10%） ○いじめ認知件数を前年度より半減させ、解消率を100%にする。 ○病気以外の長欠児童0 	<ul style="list-style-type: none"> ○明るい挨拶と正しい言葉づかいの徹底 ○教師ローテーションによる道徳・人権学習の充実 ○いじめ・不登校の防止と早期発見・早期対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎朝校長・教頭による登校・挨拶指導を実施 ○児童意識調査と結果を基にした次月の重点指導項目設定、生徒指導会議の開催（月1） ○あいさつ強化週間の実施（6月・12月）※会釈のあるあいさつ ○校長・教頭や外部講師による道徳・人権授業実践（各学級年1） ○教師のローテーションによる道徳・人権授業（各学期2） ○いじめ防止推進会議開催（毎月末） ○欠席3日で家庭訪問実施・欠席日の電話連絡 ○アンケート実施後の個別対応
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○「挨拶をよくする」「言葉づかいが良い」で保護者肯定率 あいさつ9割（前年比+5%） 言葉づかい7割（前年比+10%） 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の子どもに親しむため、「近所の子どもへ大人からあいさつ」運動実施 ○PTAのあいさつ運動の取り組み ○親子読書の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日の声かけと週に一度の学校の様子確認 ○定期的な朝のあいさつ運動 ○週に一度は、家庭でじっくりと読書する時間を確保
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ○地域アンケートで、肯定率あいさつ9割、言葉づかい7割 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的な学校での授業参観 ○読み聞かせボランティア参加 ○登下校での見守り 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公開・行事へ積極的に参加 ○月2回の読み聞かせへの参加 ○月2回、朝のあいさつ・交通指導への参加

学校・家庭・地域版の

重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標

- 【重点目標】
- 確かな学力が定着した子の育成
 - 自尊感情の高い子の育成
 - 進んで体力作りをする子の育成

津久見市立青江小学校

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
① 確かな学力が定着した子の育成	○学習の基になる基礎的な計算力・読む力を定着させ、「低学力層」児童の割合を10%以下にする。	・九九が確実に言えるようにする。	※ ・学校が休みの日に地域の公民館を開放して、低学年を中心に勉強できる場を提供する。 ・児童の音読や簡単な計算の発表等をきいてあげる。 ・ゲストティーチャーや学習サポーターとして学校の授業に関わるようにする。
		・一桁のたしざん、引き算（計算カード）を暗記して言えるようにする。	
		・文章がすらすらと読めるようにする。	・毎週木曜日、各家庭で読書の時間を設定して本を読む。読んだ後、「読書カード」に記入。
		・読書活動を推進して読解力向上を図る。	
② 自尊感情の高い子の育成	○「自分にはいい所がある」と自信を持って回答できる児童の割合を80%以上にする。	・あいさつ運動を推進する。	・毎月第3金曜日、7:20～8:00の間、地域の方々・保護者が一緒になって子どもたちにあいさつを呼びかける。(年間11回)
		・ふれあい教室（仮名）を実施して達成感や成就感を味わわせ自信を持たせる。	※ ・昔の遊び体験、物作り体験など地域で堪能な方々に協力頂いて体験活動を実施できないか。 第1回 9月～10月の間 第2回 11月22日（土） 第3回 2月19日（木） (児童からの感謝の会)
③ 進んで体力作りをする子の育成	○進んで体力作りをする児童の割合を80%以上にする。	・ラジオ体操を推進する。	・夏休み、朝6:30～6:45 保護者や地域の方々と一緒にラジオ体操を行う。
		・「早寝・早起き・朝ご飯」の生活習慣を確立する。	・各家庭において、10:00までに就寝 6:00までに起床して朝ご飯を食べよう取り組む。
		・外遊びの奨励。	・各家庭において週3回以上は外遊びをするように促すとともに、地域においては、安全の見守りに協力する。

佐伯市立鶴谷中学校 平成26年度 家庭・地域を含めた「協働4点セット」

(1) 重点目標と達成指標

(2) 学校・家庭・地域の重点的取組と取組指標

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標
<p>◎生徒一人一人の基礎体力の向上を図る</p>	<p>○城山ウォーキングを全員が完歩できるようにする。</p> <p>○自己の健康管理ができるようにする。</p>	<p>学 校</p>	<p>○体育の時間にランニングを行う</p> <p>○城山へのウォーキングを行う。</p> <p>○ウォーキングや体力向上に関わる講習会を実施する</p> <p>○健康に関する講話会を実施する。</p>	<p>○体育の時間にグラウンドを5周する。</p> <p>○学期に2回は城山へのウォーキングを行う。</p> <p>○各学年とも年に1回は長距離ウォークを行う。(1・2年は番匠ウォーク、3年は蒲江ウォーク)</p> <p>○講習会、講話会は年に1回地域の方を招聘して開催する。</p> <p>○学期の始めと終わりに健康管理についての調査を行う。</p>
		<p>家 庭</p>	<p>○食事の栄養管理に気をつけさせる</p> <p>○規則正しい生活リズムを整えさせる</p> <p>○城山ウォーキングや長距離ウォーキングに参加、または交通指導に協力する。</p> <p>○校内マラソン大会や駅伝大会の応援活動に参加する。</p>	<p>○朝食をきちんと食べるようにさせる。</p> <p>○起床時間、就寝時間を規則正しくさせる。</p> <p>○城山ウォーク、長距離ウォーク、校内マラソン大会、駅伝大会のどれかに1度は参加する。</p>
		<p>地 域</p>	<p>○登下校のあいさつ運動への参加、生徒観察をする。</p> <p>○城山ウォーキングや長距離ウォーキングに参加、または交通指導に協力する。</p> <p>○校内マラソン大会や駅伝大会の応援活動に参加する</p>	<p>○登下校時に生徒を見かけたら、できるだけあいさつやことばかけをするようにする。</p> <p>○城山ウォーク、長距離ウォーク、校内マラソン大会、駅伝大会の応援活動にできるだけ参加し、地域の声として生徒への励ましの声をかける。</p>

目標協働達成モデル校の取組に係る重点目標・達成指標・重点的取組・取組指標学年末達成状況
豊後大野市立朝地小・中学校

重点目標		達成指標	重点的取組	取組指標
学力の向上	学校	自ら進んで学習する児童・生徒の割合80%以上	「学びの約束」を意識させることにより、授業規律を確立する。 複数の教師により、基礎・基本を確実に定着させる。 読書活動や「天声人語」の視写により、読解力・表現力を高める。	「課題」「伝え合う」「まとめ」の位置付いた授業づくりを行い、「伝え合う」授業の創造に務める。 スキルタイム(週3回)学習タイム(週2回)や朝中TRY(週2回)で学力の定着に取り組む。 読書冊数年間120冊(低)ページ数15000P(高)、「天声人語」の視写を週4回(中学)行う。
	家庭	「家庭学習のすすめ」を活用して、家庭学習に取り組んでいる児童・生徒の割合を80%以上にする。 54%→49%→53% 評価C	家庭学習の改善に取り組む。	毎週1回以上「家庭学習のすすめ」をもとに、保護者と児童・生徒が家庭学習について話し合う。
		「家庭学習のすすめ」に示した、各学年の家庭学習時間が達成できていると回答する児童・生徒の割合を80%以上とする。 64%→47%→57% 評価C		
豊かな心の育成	学校	周りの人と上手にコミュニケーションが図れる児童・生徒の割合80%以上	「ありがとうの木」や「GOODカード」を通して、感謝の気持ちと自尊感情を育てる。 気持ちの良いあいさつを交わし合う学校を創る。	「ありがとうの木」や「GOODカード」を通して、互いの気持ちを伝え合う活動を全校に広げる。 毎週木曜日、小・中合同縦割班で「あいさつ運動」に取り組み、あいさつの習慣化を図る。
	地域	80%以上の地域住民の皆様から、児童・生徒が気持ちの良いあいさつをしているとご回答いただけるようにする。 97%→100%→91% 評価A	地域や学校で児童・生徒とふれあう。	月1回以上、地域や学校で児童・生徒とふれあう。
		80%以上の地域住民の皆様から、朝地小・中学校は活気があるとご回答いただけるようにする。 97%→94%→97% 評価A		

協働4点セット

玖珠町立八幡中学校

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
来校者の増加 オープンスクール	「学校が開かれている」と感じる 地域の肯定評価指数 80pt以上 「地域の願いなどの声を聞いて教育活動を行っている」と感じる 地域・保護者の肯定評価指数 80pt以上	学 校 ・案内の工夫を行う。 ・学校からの情報発信 (学校だより、学級通信、行事、HP等) ・アンケートを学校改善につげる。	生徒会活動と地域の活動の連携 2回/学期 (美化活動や学校行事、地域行事等) 来校者数 保護者 3回/学期 ゲストティーチャーの招聘 3回/学期
	家庭	・積極的に学校に行き、学校の様子や子どもの様子を直接見る。(試合、GTの講話等含)	年間10回以上の学校参観 行事ごとの学校参観の回数
	地 域 80pt以上	・学校行事に対する支援を行う。 ・GTの講話時等に学校参観を積極的に行う。	オープンスクールでの来校 月に3名以上の学校参観
家庭学習の習慣化 毎日90分以上の	各種学力調査において ・町平均を上回る ・正答率50%未満の10%未満 「毎日90分以上学習をしていますか」 肯定評価指数 85pt以上	学 校 ・1時間完結型授業(板書の充実)に取り組む。 ・各種学力調査前に補充学習を強化する。 ・下位層の生徒の個別指導にあたる。	授業の振り返りの時間の確保 互見授業の実施(含;管理職による参観) 英数の基礎基本ドリル 1回/月
	「学習内容が身についていますか」 肯定評価指数 70pt以上	家 庭 ・アウトメディアの取組に協力する。 ・「親子で家庭学習」で短時間でも子どもの勉強をみる。(関わり方の改善)	定期テスト前のアウトメディアタイム 2回/学期 「親子で家庭学習」の取組 1回/月
	「多少の困難に立ち向かう」 肯定評価指数 80pt以上	地 域 ・小学校と連携し、家族ぐるみでアウトメディアタイムに取り組む。 ・取組に対するアドバイスや意見	学校運営協議会の開催 1回/月 地域としてのアウトメディアの取組。
当たり前を当たり前前に ソーシャルスキルの向上	「いじめのない学級づくり」 肯定評価指数90pt以上	学 校 ・月ごとの重点目標により取組の具体化。 ・入室指導など挨拶、返事や礼儀作法の指導。 ・体験的な学習による道徳的実践力の向上。	いじめアンケート、教育相談の実施 2回/学期 体験的な学習 1回/学期
	「礼儀作法を心がける」 肯定評価指数80pt以上	家 庭 ・家庭における礼儀作法の指導により、スキルの向上に努める。	PTAでの情報交換
	80pt以上	地 域 ・様々な分野における意見交換や体験学習を行うことができるように支援する。 ・人生の先輩として自らの体験を語る。	ゲストティーチャーとして学校参観 地域の方との意見交換会の実施 1回/学期